

自動防火

金澤町家守れ

糸魚川大火 2016年12月22日午前10時20分ごろ、新潟県糸魚川市中心部のラーメン店から出火。強い南風におおられて次々に燃え移り、約30時間後に鎮火。古い木造建築密集地域を中心に建物の被害は全焼120棟、半焼5棟、部分焼22棟に上り、消防団員ら17人がけがをした。

町家の構造を見学する田中さん
川金沢市のひがし茶屋街

金大大学院1年の田中裕之さん(23)は、金澤町家を大規模火災から守るため、火災情報が入ると屋根や壁に自動的に散水して延焼を防ぐシステムを考案した。新潟県燕市出身の田中さんは、なじみの土地の景色を一変させた2016年12月の「糸魚川大火」からこの防火方法を着想した。ポンプメーカーや金沢市消防局の協力を得て起業、実用化を進める。



都市工学を学ぶ田中さんは、糸魚川大火の直後、被災地を訪ねた。大きな被害にがくぜんとしながら消火栓や消防車の配置など都市工学の観点から防火策を考えたが、木造住宅密集地では容易に防げないという結論に至った。

金沢の歴史ある街並みに引かれた田中さんは、町家保全や活用を考える学生団体「金澤町家学生会議」に所属している。糸魚川大火の教訓として、特に木造の町家は延焼を防ぐ対策が必要だと痛感した。

田中さんは金沢市消防局から町家の延焼経路などについてデータをもらい、検討した結果、

IoTスプリンクラー考案 金大院生・田中さん起業



糸魚川大火きっかけに

飛び火や輻射熱の影響を受けやすい屋根、軒先、外壁の3層に霧状に放水するポンプが効果的と判断した。

長野ポンプ(金沢市)の協力を受けて「加賀鷹IoTスプリンクラー」を製作した。火災の発生場所や風向きに合わせた放水ができるようプログラミングし、スマートフォンのアプリや消防署の指令など遠隔稼働の機能も付ける考えた。「田中ミス

ト製作所」と名付けた会社を設立して製品の改良、実験に取り組み、21年までに販売を目指す。24日に石川県地場産業振興セ

ンターで行われる「スタートアップビジネスプランコンテストいしかわ2019」に唯一の学生候補として出場し、開発費用の獲得を狙う。田中さんは「魅力ある街並みと人命を守り、大規模火災で悲しむ人を減らしたい」と話した。